

栄光

説教・「我らが救すごとく」 狩野牧師……………1
特集・イースター 希望を持って……………2
別れの言葉 菊地信行神学生 石室裕……………5
説教・「苦難、忍耐、 練達、希望」 岸牧師……………6
牧師の書き込み……………7
牧師の書斎から……………7
長老のファイル……………8

『我らが救すごとく』

教 説

レビ記16章17節～22節

マルコによる福音書11章15節～25節

狩野進之佑

宮清めとも呼ばれる有名な箇所

です。この箇所です。主イエスは、神殿が「すべての人の祈りの家」たり得ていないことを厳しく批判し、この神殿の滅びを予告しました。それと共に、主イエスはここで祈りについて教えておられます。かつて神が定めた祈りの家、エルサレム神殿がもはや実を結ばない、神に呪われるものとなりました。神殿が滅びることによって、この地上から神の祈りの家が失われる。しかし、主イエスは神の祈りの家を新たに建てようと言われます。主イエスの祈りの教えは、弟子たちを、また教会を、真の祈りの家とするべく語られたものなのです。

そのためにここでは二つのこと

を教えています。ひとつは神に祈

る時にどういう姿勢で祈るかという事です。主イエスは祈るときに疑われないようにと教えています。疑われないで祈る。確かにそれは理想的な祈りの姿勢かもしれませんが、ですが、人の祈り心が強ければ強いほど祈りが叶うなどと、そんなことがあるでしょうか。人の信心が深ければその祈りが叶うとすれば、信仰はただ不思議な魔法のエネルギーということになりかねません。主イエスはそういうことを仰りたいわけではないでしょう。祈りが力を発揮するのは、人間の信仰がゆるぎないことによるのではありません。神が祈りに応えて働くから、祈りは人知を超えた力となります。神が私たちを愛

して働く方だと信頼しているならば、続く言葉もまたすんなりと、私たちのもとに届くと思うのです。神がそういう誠実な方であると信じるならば、私たちはあれこれと疑う必要はありません。疑わずにとつしりと、祈ったことはもう既に得たものとして祈る、そういう祈りを積みあげる祈りの家として、教会は立つことができます。

祈りの家を建てるためのもうひとつの教えは、救すということ事です。主イエスが祈りにおいて救すということを求めるのは、ここだけではありません。私たちが最もよく知っているのは、今日の説教題にも引用しました、私たちがいつも祈っています「主の祈り」の一節でしょう。しかし私たちが罪を救すということが、神の赦しに先立って起こる。それはなんだか順序が逆である気がします。人を救すことの少ない私たちです。そういう私たちの救し方をもって、神様に私たちを赦してくださいと祈る。ふと考えてみると実に恐ろしいことではないかと思うのです。私たちが他者を救すということ、神が私たちを救すというこ

と。それを主イエスは深く結びつけて語ります。レビ記にあるように、神の赦しを求め続けてきた歴史をイスラエルの人々は持っています。しかしながら、他人を救すということはそこでは問題にはなりません。主イエスはそれだけで良しとなさらなかったのです。

主イエスが建てようとなさる新しい祈りの家、そこにおいては、神が人を救すことのみならず、人が人を救すことが起きなければなりません。神の前に赦されたもの同士が互いを救さなままでは、そこは神の祈りの家とはならないのです。その重みを私たちは受け取り続けねばなりません。この私のために十字架にかかった主イエスが、私の隣人のためにも十字架にかかってくださったのです。私たちが誰かを救し、愛し、祈り、この教会に導く時、その人の罪は赦されます。神の国の福音を受け取った私たちには、互いに罪を赦し合うという重荷が託されています。この教会が真の祈りの家であり続けるために、この重荷を共に担い続けましょう。

イースター 希望を持って



コロナ禍にあって
ウクライナ侵攻という暴挙が起き
辛い状況が続いています。
そのような中で迎えるイースター。
今こそ、希望を持って
主の復活を待ち望みましょう。

イースターに思う

濃 眞智子

この冬は寒さが厳しく、ウメの開花が遅れましたが、コブシが咲き始め、やつと春がやってきました。

しばらく教会をお休みしていますが、オンラインでの礼拝を守っています。環境を整えば、違う場所でも心をひとつにして、共に礼拝できることはありがたいことです。このために奉仕されている方々に感謝いたします。

こんなに便利な世の中ですが、考えられないようなことが起こります。コロナ禍にあって戦争が勃発し、災害も発生しています。目を覆いたくなるような光景です。それと同じように、比較にならないことかもしれませんが、私たちの日々の暮らしの中にもどのようなことが押し寄せるように次々とやってきます。どんなに以前と同じようにと望んでも、それは難しいことで、受け入れて、今ある中でなんとかやっていくほか

ありません。できることは何か、与えられているものは何か、何をどうするべきかと考えることは、恵みを知ることでもあります。

怪我から一転、失うものがたくさん、抱える困難もたくさんになりました。息をするのも苦しくて泥沼だ：と思った時もありました。友人が私に言いました。「まちこさんの好きな蓮の花は泥の中から生えてるよ。泥の中から芽を出してきれいな花を咲かせている。だから大丈夫！」。蓮になれたらいいなあと思いました。自分の中にあるものを天に委ねよう、髪の毛一本もどうすることもできないのだからと。困難は気づきを与え、新たな力をも生むことを知りました。それが恵みなのかなと思えるように、私自身変えられました。

イースターを前にして心の痛み毎日です。祈ることの大切さを感じます。この状況は全て主がご存知で、新たな道は用意されていると信じます。世界中の人々が心を合わせ祈る時、祈りは聞き届けられ、争いは鎮められ、道が開かれる日が来ると思っています。ウクライナにヒマワリが咲きますように。

春

桜岡理代

イースターといえはゆで卵。子供の頃は染粉で卵を赤や黄色に染めて和紙に包んであった。色セロハンでくるんだ頃もあり、CSの教師時代からはウサギや花がプリントされたシールに卵を入れ密着した可愛い玉子になった。今までいくつのイースターエッグを食べたことだろう。受難週が明け、これから春になるとの喜びと共に。中学の国語の時間だったと思うが、ブラウニングの「春の朝」という詩を聞き、印象に残った。

時は春
日は朝
朝は七時
片岡に露みちて
揚げ雲雀なのりいで
蝸牛枝に這ひ
神 空に知ろしめす
すべて世は事もなし

(訳・上田敏)

すがすがしく大らかで、時々思

い出す大好きな詩だ。英国の詩人ロバート・ブラウニングの詩であることを最近知った。イースターが春であることの神様の摂理を思う。イースターが夏だったたら？秋だったたら？ 意識もずい分違い、イースターエッグもなかったかも知れない。

4年前デッサンの教室で人物画を描いた。モデルはウクライナの青年だった。日本に来てあまり長くないのか日本語もおぼつかない。今、壁にピンナップされた青年はまっすぐこちらを見ている。ウクライナが黒海の北に広がる大きな国なのを知った。今この国に起こっていること、理不尽なロシアの侵攻で悲惨な状態になってしまった。彼は国に帰っていて戦いに巻き込まれているのか。それとも日本に居て家族の安否に苦しんでいるのか。ロシアは即刻中止してほしい。月報が出る頃には全て終わっていることを信じた。ウクライナの野や山に草木が芽ぶき、「春の朝」がくることを祈る。すべて世はこともなしと。

昔と今と

鈴木恵子

今年の2月〜4月の礼拝奏楽に演奏した曲はバッハ作曲「恵み深きイエスを迎えよ」というコラールとそれに基づく11の変奏曲です。1718年以降に作られたこの曲は、受難の季節に多く演奏されます。C・カイマンによる7節の歌詞は1648年に書かれました。曲よりも70年前のことになります。題名から、イエスのエルサレム入城を人々が喜んで迎え、その後真逆の反応に変わるという出来事を連想します。

それぞれの節は6行から成り、イエスの受難、そして様々な苦しみにある時の祈りによる癒し、死に際しての励まし、助けへの希求が始めの4行で歌われます。一方、各節の残り2行はすべて日本語訳ではおろかえしになっていて、「汝の愛を共にせんことを許し給え。それにより幸福な死を迎えさせ給え」と反復されます。し

かし、最後の2つの節の残り2行の原文は「聖なるかなといつも歌いそれゆえ我も聖なるものとならん」とドイツ語から読みとれます。

オルガンを弾く時にバッハやそれ以前の人の置かれた時代を思うことは難しく、不協和な音の多い作品は、折角礼拝にいらした方に対して申し訳ない気がすることもあります。それでも、この詞が書かれた1663年にはまだペストの流行があり、30年戦争による荒廃が残っていたことでしょう。

2年前伝染病が流行り始め、理不尽な社会の動きがあり、生活基盤がゆらぐ人々が増えています。コロナによる病院の苦勞、それに関連するトラブルは身近なものとなり、ロシアに破壊された建物を毎日目にするようになり、春から多くの価格が引上げへと確実に日本に影響が広がっています。

今抱えている不安はまだ大きくありませんが、共感が養われ、遠い地において苦勞している人たちは勿論のこと、バロック時代に生き、主へのほめ歌を忘れなかった人々に思いを馳せ、イースターの喜びを新たにしたいと思います。

イースターの祈り

馬場泰子

1999年からM姉が中心になり毎月メンバーの誕生日会、イースター、クリスマス、何もない月は何もない会と、コロナ禍でもパーティーションをして蕎麦屋さんから天井セツトをとり、お祈りをして神様と一緒に過ごしています。

この会は集まれることに感謝するだけで悩みを聞いてくれる人も話す人もいません。そんな10人中から6人がクリスチャンになりました。多分私のような人間でもクリスチャンになれるんだと思っただ人もいるのかもしれない。

先日、「悲観的になるのは情性である。楽観的になるのは意志である」というようなことを聞きました。楽観的になるための意志は○聖書の中にある

○牧師の説教の中にある

○友人たちとの祈りの中にある

○他人の喜びを喜べる己の心の中にある

そんな気がします。とここまで書いて何気なく『栄光』2月号を手に取りました。「教会と私」という題名です。自分にとっては生

死を分けるほどの危機的状況の中、ある教会の牧師夫妻に助けを求めて訪ねた時の対応が、それはつれないものだった。そのことから「教会とは人に助けを求めに行

く所ではない」「聖書の中の御言葉に生きる力の全てを得ることが出来る」とその時に気が付いたというようなことが載っていました。余り深く考えることなく生きてきた私は「成程、意志の力とはそういうことか」と知りました。

毎月、何も考えずに神様が一緒にだと、友人たちとお祈りして神様に感謝するだけの、悩みを話す人も聞く人もいない集まりが、実はキリスト教の理にかなったことかもしれないと思うようになりました。本物のクリスチャンになれない私ですが、近づけるように心掛けていることは、「私に会ってよかった」と思われる人間になるように日々努力していることです。

希望

牧内美和

原稿の提出期限が迫る中、一刻と変わる私の希望の色。書いては消しを繰り返す日々です。

手元に子どもがCS幼稚科の頃に作った葉があります。彼が描いた石とゲジゲジの絵の反対面には「信仰・希望・愛」の文字。世の中はコロナに続いて戦争が現実のものとなり、これまでの「平和」がボヤけ、社会の分断を生み、人との繋がり危うさを目の当たりにする恐ろしい毎日となっていました。祈ることしかできない今、「希望」をどこに見出せばよいでしょう。毎週教会で光を見たような気がするのに、気のせいなのでしょう。世界の指導者たちに畏れと思慮深さ、賢さを求めて祈るけれど、それは届かない祈りなのでしょうか。

今、私は保育園で事務と保育補助に携わっています。世界がどんなに争いに満ちていても、0、1、

2歳の子どもの目は美しく輝いています。3歳児になると周りの空気がわかってきて、その輝きも少しずつ変化していきます。三つ子の魂百まで、とはよく言ったものです。ここで培った記憶や経験はその後の成長に大きく影響するのだな、と恐怖さえ感じます。生活の中で育つ感性は待たないです。

今、大人は手を止め足を止めて、子どもの目を見て、一緒に考え、問いに答えて、足元の草花や虫、空の青さを仰ぎ見て、1分1秒を大切にしていかなくては…と胸がドキドキするのです。

爆弾から逃げている子どもたちがいることに悲しみと怒りを覚えます。全ては身勝手な大人により、弱いものから、生命や幸せが奪われているのです。大人の1人である私にも責任があり、辛い現実の前に力なく、ただ茫然としています。希望は目の前に広がる自然、希望は相手を思いやる心、希望は、愛。どうか1日も早く愛溢れる世の中を取り戻せますように。やはり私は祈るしかない小さなものです。

別れの言葉

キリストの弟子で
あり続ける

菊地信行

経堂北教会で神学生として最後の大切な1年を過ごせました。こ
と、とても嬉しく思います。また
いつも皆様のお祈りの内に覚えて
くださりましたこと、心より感謝
申し上げます。皆様のお支えがあ
り、ようやく4月から伝道者とし
て立つことが許されました。

最初は式順が気になり、何度も
週報を確認しながら守っていた礼
拝でしたが、終わりにはほとんど
確認することもなく、導きのまま
に、身を委ねながら礼拝を捧げる
ことのできる心地良さと平安を感
じておりました。そして、コロナ
禍にあつても交わりを持つとして
くださったお一人おひとりのお
顔を思い起こすたびに、ここでの
礼拝が本当に終わってしまうのだ
と、そのことが思い出されると残
念でなりません。

この1年皆様と共に過ごす中
で、多くの気づきと学びがありま
した。特に、伝道者は絶えず求道

者でもあるということ改めて教
えられました。神学校に入学した
当時は、神学の研鑽を積んでいく
ほどに伝道者としての資質が備わ
っていくものと考えておりました。

た。けれどもこの1年間、遣わさ
れる日のことを思い起こす度に、
伝道者としての備えが十全にでき
てから派遣されることはありえな
いののだと思い知らされました。だ
からこそ、伝道場に立ち、御言
葉を取り次ぐとすると、語る
者が主の御心と主の道を求めるこ
とに誰よりも心を砕かなければな
らないことを教えられました。パ
ウロが「わたしに倣う者になりな
さい」と語るように、その生き様
から、主に結び合わされ、神の愛
に根ざした生き方を勧める者であ
るために、キリストの弟子として
学びと祈りに誰よりも熱心であり
続けたいという願いを、教会生活
を通して与えられました。

これからも、この地で得たもの
を携えて伝道者としてふさわしく
用いられませう、お祈りに覚え
ていただけましたら幸いです。

皆様の信仰生活が主によつて支
えられ、その先に限りない祝福が

注がれますよう、千葉の地よりお
祈りしております。1年間ありが
とございました。

送る言葉

石室裕一

狩野進之佑先生、菊地信行神学
生をそれぞれの新天地へ送り出す
時がきました。これまでこうして
何人の若き牧者を見送ってきたこ
とでしょう。

私はこれまで彼らとの別れを寂
しいと感じたことはありません。
日本中に友人が広がっていく、増
えていく、わくわくするなあ！と
いう感覚を覚えるのです。

新年度は久保哲哉先生、上野峻
一先生も応援説教にいらしてくだ
さいます。とても嬉しいです。や
はり「別れ」ではなかったのだと
実感します。

狩野先生は歌がとてもお上手な
ので、CSクリスマスミュージカ
ルのスターでした。妻はミュージ
カルをここ最近仕切っていますの
で、狩野先生という当代きつての
役者を得て、それはそれは嬉々と
しております。ですから狩野先
生ご卒業後の彼女のことは少しだ

け心配しております。コロナ禍で
祝会ができなかったため、2作品
のミュージカル動画があります。
世の中が少し落ち着きましたら、
教会員の皆様にごスクリーンでご鑑
賞いただきたいです。

菊地神学生は外見的には華やか
で垢抜けたハンサムガイなです
が、内面的には良い意味でとても
オジサンくさく、年の離れた私と
も静かにボソボソとおしゃべりし
てくれて楽しかったです。

狩野先生、先生が神にお仕えす
ることには何の心配もありません
が、人との触れ合いは頑張ってく
ださい！ 応援しています。菊地
神学生、コロナ禍でなければもっ
と色んなことを一緒にしたかった
です！

お二人とも素敵な先生になって
ください。祈っています。



説 教

『苦難、忍耐、練達、希望』

申命記8章2節～10節

ローマの信徒への手紙5章1節～5節

岸 俊彦

私たちを選び召してくださった神を信じて、私たちは義とされま

した。私たちは主イエス・キリストによって神との間に平和を得ています。神が私たちとの義しい関係を回復してくださいました。「平和」とはヘブライ語でシャローム

です。あらゆるもので溢れるほどに満たされた状態を意味します。パウロの時代、地中海世界はローマによる平和が実現しつつあり

ました。ローマ皇帝が神の子と呼ばれました。皇帝の誕生が福音、良い知らせと言われました。しかし、皇帝による平和が本当の平和でしょうか。私たちの平安となるでしょうか。

パウロは、「わたしたちの主イエス・キリストによる神との平和」を伝えました。御言葉を語り、教会を開拓し、人々を招き、主の平和をもって一人一人を祝福しました。主が実現して下さる平和

はキリストによって始まり、終わりの日には完成されることを信じて、希望をもって生きることを福音としてパウロは語りました。この主による平和をパウロは「キリストを通して和解させていたいたい」(5・11)とも語ります。

ローマ帝国内でもユダヤ教社会の中でもキリスト者は少数者でした。神との平和を得て主の恵みに生きることは誇りですが、また困難を背負うことにもなります。だから「苦難、忍耐、練達、希望」を語りました。これは神との平和に生きる信仰者の生き方です。「あなたがたには世で苦難がある」(ヨハネ16・33)とキリストは弟子たちに語られました。パウロも「あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです」(フィリピ1・29)と語っています。

外から押し寄せる苦難だけではありません。私たちの内には心の法則と罪の法則があり、内なる葛藤があります(7・23、24)。

荒野の40年を旅した民は、生存するための最低条件さえない荒野で苦難に耐え、神の言葉で養われ、鍛えられ、神の民としての品格を身につけました。実際は、民の不平不満と嘆きや嘆きの連続でした。それにもかかわらず「この四十年の間、あなたのもまとう着物は古びず、足がはれることもなかった」のです(申8・4)。背信の民を神は滅ぼされませんでした。神の信実です。神の信実を独り信じたモーセがいました。神と罪の奴隷である民との間に立つて、モーセは自らの命を注いで執り成しました。

私たちには、モーセ以上のモーセ、キリストが共にいてくださいたいです。私たちは「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(マルコ8・34)と語ってくださいました。キリストに「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられ

なくなっていました」(ローマ3・23)が、今や「神の栄光にあずかる希望を誇りにしています」(5・2)。

「神との間に平和を得ている」からこそその患難です。忍耐して自らの十字架を担って、キリストに従うことの喜びを知り、神を賛美するのです。キリスト者としての品格を鍛え上げられ、終わりの日、天の父が完全なように私たちもキリスト者として神が完成してくださいます。神の作品として星のように輝くことができる希望、望み得ぬものを望むことができず。すべて、主イエス・キリストのおかげです。だから私たちは十字架のキリストを誇り(ガラテヤ6・14)、私たちの喜びとし、主なる神を賛美します。

キリストのおかげで、土の器に過ぎない私たちには溢れるほどの神の愛が注がれています。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ3・16)。この神の愛が私たちには溢れるほどに注がれています。

牧師の書き込み

牧師として召命を受けたと信じて献身し、伝道師・牧師となるまで今日まで歩まされてきました。神学生の頃から気がついてきたことですが、自分は本当に牧者に向いていないと思います。この3年間でその予感確信へと変わりましました。細々としたダメなところは枚挙に暇がなく、牧師らしく誰かを信仰に導くことができるのか、いまだにビジョンが見えずにいま

す。もともと牧師は適性ではなくて、召命によるものですから、とりあえず止めさせられるまでは、神様にお役目をいただける限りはやってみようと思いついてきました。なんとも傷だらけではありませんが、こうして経堂北教会から送り出されることができました。ただ、これからは、伝道師を育てて送り出すという経堂北教会の使命に私が応えられていたのか、問われるところでもあるのだと思えます。もし赦されるならば、たとえ離れていようとも、末永く共に伝

道する仲間として歩んでいけたら何よりの幸いです。

ゼミの鳴き声はうるさいほどでした。なぜかここ何年かは抜け殻を見ることもありません。

経堂北教会での3年間はほとんどがコロナ禍のために歩みが止められたこと、ふと振り返るとやっぱり寂しい思いがします。1年目に賑やかにやってきたいろいろなことが、今でも恋しくなります。そう多くの教会の経験があるわけではないですが、経堂北教会でいろいろびっくりさせられたの思い出します。歌を歌ったり、踊ったり、おいしいものを食べたり。信仰の歩みにはあまり関係のない

牧師の書斎から



白木蓮の花が美しく咲きました。通りがかりの人も立ち止まるほどです。「写真を撮らせてください」と庭に入った方もいます。私も撮りましたが全く腕が違いました。牧師館に住んで20年を越えました。こんなに見事に咲いたのは初めてのことです。

かつては夏になると根元にはボコボコ穴が開き、幹には蟬の抜け殻が沢山ついていました。アブラ

春、花はそれほど咲かず大きな葉ばかりで、秋になると散って掃除に手間がかかります。雨樋や地下のドライエアの掃除も欠かせません。もともとこの春の花びらは例年の葉どころではありませんでした。

て、蓋を開けて根っこを取り除いていました。何年前かによく根元の枡を新しくしました。

根が古い枡の中まで伸びて、排水管が詰まり、汚水が溢れ出したこともあり。毎年春から夏にかけて根が伸びるのを見計らっ

今後のことを考えると切ろうかとも考えていました。しかし、これだけ見事に咲くと、来年また考えよう、となります。

庭の桜を10年前に切りました。幹の中と枝が枯れ、枝が落下すると危険なためでした。ハナミズキも枯れ出して花が咲かなくなったので切りました。オリブは大きくなりすぎて草花の邪魔になるので切りました。20年前は庭をハー

ことであるのですが、神様は聖霊だけでなくて、周辺のものをも与えてくれる。それをみんなで分かち合えるというのは、やっぱりかけがえのないことでした。

落ち着く日がいつかはきつとくるでしょう。でも教会は変に落ち着かないで、賑やかで楽しくもある経堂北教会をどんどん取り戻して外から勝手に祈っていきましょう。みなさんのところに神の祝福が豊かにありますように！

(狩野進之佑)

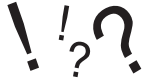
ブ畑にするつもりだったのですが、残っているのはチェリーセイジとレモンバームだけです。庭に関心のない牧師のせいでしょう。そのかわりチューリップが今年も咲きます。

(岸 俊彦)



撮影 J.H.

個人消息



長老のファイル

先日（3月13日の礼拝後）、一

度延期された臨時教会総会が成立し、狩野先生の担任教師辞任承認の件と、岸先生の主任担任教師任期更新の件が無事承認されました。東京都に新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が出ている中、多くの教会員の出席を得て成立させることができたことを感謝しています。総会の中での話にもありましたが、今まで39年

間の長きにわたって経堂北教会で奉仕してくださった岸先生がいよいよ残すところあと3年で定年を迎えます。

創立80周年記念誌を見てみると、村田正亮牧師が、1937年に経堂伝道所を開設して、1963年に主任担任教師を辞任するまで26年間、その後主任者を務めた四竈揚牧師が2002年まで39年間、そして岸俊彦牧師が現在まで20年間主任者として奉仕してくださっています。80年以上の歴史のある教会で、同じ牧師がこ

れだけ長く教会を導いてくださった教会は珍しいのではないかと思います。

それだけ「代替わり」の経験が少ない教会とも言えます。3年後に迎える次の主任者とともに、また、経堂北教会の歩みが始まりました。その教会体制の引継ぎは、経験が少ないだけに困難もあるかもしれませんが、この教会が神の御心にそった歩みができるように、長老会を中心として準備をしっかり行っていくことがとても重要であると思います。

3年間は長いようで短いものです。神様の声をしっかりと聴きながら、教会員皆で備えることができますようにと祈ります。

まもなくイースターを迎えます。感謝をもって礼拝に集い、復活をお祝いすることができたらと願っています。（大友太郎）

掲示板



- 棕櫚の主日礼拝 4月10日(日) 午前10:15
- 受難週祈祷会 4月13日(水)
午前10:30 午後7:00
- もより教会合同受難週礼拝
4月14日(木) 午後7:00 松沢教会
- イースター礼拝 4月17日(日) 午前10:15
- 定期教会総会 4月24日(日) 礼拝後

「栄 光」2022年4月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp